

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(1, 2ユニット共通)

| | | | |
|---------|-------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2775801687 | | |
| 法人名 | 株式会社 ライフケア森本 | | |
| 事業所名 | グループホーム四季はる | | |
| 所在地 | 大阪市平野区長吉出戸6-14-38 | | |
| 自己評価作成日 | 平成31年11月29日 | 評価結果市町村受理日 | 平成32年3月26日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多くの方々(家族・医療・地域)のご協力をいただき、入居者様が生き生きと楽しく暮らせる生活の場となっています。
 入居者様の積極的な家事参加、レクリエーション参加、お元気で笑顔が素敵な方が多いのも自慢の「グループホーム四季はる」です。もちろん職員も元気で。
 家事だけでなく、行事も入居者と職員の『共働』作業として、みんなが楽しい毎日を過ごせるよう心がけています。
 みんなが居心地がいいと感じる場所を目標としています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター | | |
| 所在地 | 大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階 | | |
| 訪問調査日 | 平成31年12月2日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、開設後15年になる2ユニットのグループホームで、大通りに面し、公園、買い物、外食に行きやすく、区民センターが2軒隣りにあるので、催し物にも参加しやすい恵まれた立地である。事業所理念は「人には一人ひとりの個性がある」で、利用者の中から把握した思いや意向に沿ったケアを心がけている。調査員の訪問時には、利用者がお茶を持ってきてくださり、できることを大切に実践していることが窺えた。身体拘束適正化の指針を作成し、委員会や研修会で職員の意識が向上した結果、転倒防止のために使用していた車椅子ベルトをなくすことができた。職員の資格取得を積極的に支援し主任ケアマネジャー他、種々の資格保持者がおり、毎日のケアに役立っている。管理者と職員間の風通しが良く、働きやすい環境が利用者にも良い影響をもたらし、穏やかな笑顔ある生活の場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝の申し送り時、今日一日楽しく暮らせるようにするためにはどうあるべきかを自問自答しながら実行に向けて努力している | 事業所理念は「人には一人ひとりの個性がある」というもので、事務所に掲示している。会議や日々のケアの中で、管理者が理念の思いを職員に伝え、職員は利用者の個性を尊重して、実践につなげている。 | 理念は、事業所が提供するサービスのあり方を端的に表したもので、内部で共有するだけでなく、家族、地域社会にも伝える必要がある。そのためにも、外部の人にも目に付きやすい玄関に掲示する、パンフレット、インターネットなどで発信する、などを検討することが望まれる。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 施設行事には地域の方をお招きし、参加していただいたり、敬老会にも招待していただき参加させていただいている | 自治会には、受け入れ側の拒否で加入しておらず、その他の方法で地域との交流をはかっている。2軒隣の区民センターで開かれる催し物や、地域包括支援センター主催のカフェに参加し、近くの保育園のお遊戯会を見に行っている。中学生、高校生の実習や体験学習、地域ボランティアの受け入れなどを行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域包括支援センター主催の研修会に職員と一緒に参加する キャラバンメイトの一員としても活動する | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 毎回2か月間の施設報告をし、多くの家族に参加していただき、入居者の過ごしやすい暮らしの向上に努めている | 自治会からの参加が得られないので、傾聴に来てくれる地域ボランティアの人に出席をお願いしている。家族には開催案内をし、施設行事と日程を合わせて参加しやすく工夫している。事業所の報告と参加者意見などがわかりやすく議事録にまとめられているが、家族への送付は行われておらず、施設内で公開されている。 | 地域密着型サービス施設の運営推進会議に必要な地域住民代表として、民生委員にお願いして、参加を得ることを期待する。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 集団指導の出席はもちろん、疑問点などは直接担当の方に指導して頂くよう努めている | 事業所の運営上の疑問点は、市の担当課に聞くことにしている。市の行事に利用者と一緒に参加したり、キャラバンメイトの例会や百才体操の集まりには、積極的に参加している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 危険防止のための安全確保は行っているが、できる限り自由に行動ができるように心がけている | 身体拘束適正化の指針を作成し、委員会を組織して3月おきに事例を検討し、全職員対象の研修会を年2回行っている。その結果、職員の意識が高まり、転倒防止のための車椅子ベルトの使用をなくすことができた実績がある。現在はスピーチロックをなくす取り組みを強化している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日々、職員同士で意見交換をしながら安全確保に努めている | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 地域包括支援センターとのれんけい、活用など運営推進会議においても情報提供ができるよう努めている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 万一の事故が発生した場合の対処法、長期入院の場合の対処法、家族への協力依頼など、場合によっては医療も同席して説明を行う | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族様が訪問された際は近況報告をするように努めている 医療については主治医より、直接ご家族様に説明していただく | 食事に関する利用者の意見が多く、食べたいものなどの要望にはできるだけ応えている。ほとんどの家族が月1回以上は来訪するので、その時意見を聞くようにしている。家族の意見は職員間で共有して運営に活かしている。家族通信は毎月送り、イベントには家族を招待し、ビデオを流して施設での利用者の暮らしをわかってもらうように努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1度の施設会議、運営会議で意見交換を行い、みんなが穏やかに暮らせる場所となるように努力している | 月1回フロアごとに施設会議を開いて、運営のことやケアのことを話し合っている。職員から出された意見は、とにかく一度試してみようという方針で実施している。職員からは、意見が言いやすく、取り入れてもらえるので働きやすい、との声が聞かれた。定期の個人面談はないが、気になることがあった時には話し合っ て、その時に解決するよう心がけている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 各自の目標、個々のレベルアップになるよう研修会への参加、昇給、ボーナス支給、処遇改善などに努める | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 地域での勉強会や実践者研修には公休で参加し、施設が費用を負担する | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 平野区グループホーム連絡会への参加、ネットワーク勉強会への参加、お互いの施設行事への参加交流など、サービス向上に向けて取り組んでいる | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回の面談日より利用者、家族と十分に話し合う機会を設ける ケアプランセンターから現在までの情報収集を行い、信頼関係の構築に努める | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 施設見学、家族からの情報収集、ホーム運営方針の説明など、入居者が安心して生活できる場にするための情報交換に努める | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 場合によっては他施設の情報を提供するなど、本人はもちろん、ご家族様のご要望も大切にします | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食事の準備、片付け、洗濯干し・たたみ、モップ掛けなど、できる限り職員とともに過ごしている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者と家族の関係を大切にし、入居者の相互の精神的な支えとなるよう行事への参加や面会を大切にし、促しを行っている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居前より面会について家族に説明し気軽に来訪していただくようお願いしている 来訪された方々に対してゆっくり話せる空間の提供や声掛けを行う | 入居前の訪問や面談、関係者からの情報で、利用者の今までの生活を把握し、センター方式を利用して継続するよう支援している。今でも来てくれる友人がいたり、帰宅した時に近所の人と会ったり、一緒に食事をしたりするケースがある。家族同行で馴染みの美容院に行ったり、墓参することもある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 各利用者様の性格や特性を把握し配慮した上で、よりよい関係作りを支援する | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後もできる限りの支援、相談に応じる | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族と相談させていただき、日常生活の会話・行動などから入居者本位の暮らしを第一に支援するよう努める | 利用者の意向の重視を理念にあげており、日々の生活の中で声かけを多くして、会話の中から思いや意向を把握しようと努めている。把握した内容は、合同朝礼や職員ノート、メモなどで共有して対応している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族・関係者からできるだけたくさんの情報収集を行い、情報を元により良い支援に繋げる | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | それぞれの職員が記録した「介護記録」「業務日誌」や日々の暮らしぶりから現状把握に努める | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3か月に1度、サービス担当者会議を開催し、介護計画の見直し、意見交換を行う可能な限りカンファには家族にも同席していただく 家族の意向も大切に、入居者本位の介護計画を作る | 介護計画のサービス内容は個人の介護記録に添付してあり、職員は内容を確認しながらケアにあたって記録している。毎月のケア会議で検討した結果をモニタリングとし、サービス担当者会議を経て、目標期間ごとに計画書を更新している。今回の家族アンケートで返信があった全員が、計画について説明を受けて一緒に話し合っている、と回答している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の状態、変化、想いを個々に記録し、情報を共有し入居者がより良い生活を送れるような介護計画の見直しに生かす | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 状況の変化を見逃すことなく、いち早くその時々に応じた可能な限りの対応ができるように、家族・医療・介護が協力している体制を構築する | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアメンバーによる催し、定期化した地域の方々による踊りの会、また近隣のコミュニティセンターの催しにも参加するなど、地域の暮らしを感じる支援を行う | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者、家族の希望を大切に適切な医療を受診できるように支援する 協力医みどりクリニックは月2回の訪問医療、24時間オンコール体制となっており急な体調不良にも迅速に対応できる | 契約時に、利用者、家族の意見を聞いてかかりつけ医を決めており、協力医の内科、精神科は月2回、歯科は毎週往診を受けることができる。整形、皮膚科、その他必要な医療機関には、家族や職員が付き添っている。訪問看護師は毎週訪問し、受診状況記録を医師に伝え、必要時には家族に電話で伝えて対応している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回、定期的に訪問看護がある 日々の体調報告、ドクターへの連携など、正確な情報伝達に努める | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院提携医療機関には入居されたらすぐに情報提供を行う 退院時は訪問医療への連携がうまくいくように情報交換に努める | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合は家族、介護、医療とともに十分に話し合い、方針をともにしながら終末期を迎えられるようチームで支援できるよう努める | 入居時に、重要事項説明書で終末期の対応を利用者、家族に説明している。利用者に変化があれば、主治医より家族に現状を説明して看取りの体制を取り、利用者の状態の変化の都度説明して24時間オンコール体制で臨み、カンファレンスをして職員全員で取り組んでいる。職員は今までに看取りの経験があり、実践から対応を学んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 社内研修として年1度、消防署よりAEDの講習を実施する | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の消防署の指導のもと、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を行う 災害時の対応について検討する 近隣の方々に手紙にて個々に協力依頼をする | 年2回消防訓練を実施している。災害対応マニュアル、ハザードマップ、連絡網を整備し、水、お茶、カセットコンロの非常物品を用意している。近隣商店に訓練への参加協力を呼びかけ、地域と連携を密にして行く準備をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々に応じた対応、声掛けに配慮しながら行う 記録、個人ファイルの個人情報の保管、取り扱いは厳重にする | 利用者の居室への入室時や、トイレ誘導時の声かけに気を付け、利用者の人格を尊重した対応をしている。職員会議でも、利用者のプライバシーや人格を尊重した対応の話合いをして、不快な思いをさせない対応をしている。個人情報の書類は、施錠できるロッカーに保管している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中で要望・想いが出やすいような声掛けを心掛け、傾聴する | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースを尊重し、希望に沿った支援を大切にする | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 行事や外食時にはオシャレを楽しめるよう、洋服選び、化粧の支度を手伝う 2か月に1度の訪問理容・美容を利用する | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎日3回の食事の準備・片付けなどではできるだけみんなで協力して行う 節分、ひな祭り、クリスマス会など季節の行事はみんなで相談し、メニューのリクエストを聞く 外食を楽しむ | 食材業者より購入した材料を用い、事業所で職員が順番で調理して提供している。業者を中止して独自で買い物して調理する日も多い。利用者も一緒に盛り付けや配膳をして、職員も同じテーブルを囲んで和やかに食事している。朝食は事業所で賄い、クリスマスなどの行事食やリクエスト食も、職員が買い物に出かけて調理して提供している。寿司店、ハンバーガー店で外食する機会もある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 介護記録に毎回の食事量を記載する 水分量は一人ひとりの状態に合わせて管理し、体調管理をする 嚥下に問題のある方はとろみをつける、ペースト状にするなどの工夫する | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアでは一人ひとりの状況に応じて声掛けや環境の工夫・支援する 定期的な訪問歯科の往診、歯科衛生士による専門的な口腔ケアや治療を行う | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居者の訴えや表情を観察すること、排泄チェック表で排泄リズムを把握することでトイレ誘導を行う | オムツ使用の利用者が1名、排泄自立の人が4名、その他の人は排泄チェック表を参考に排泄リズムを把握して、声かけてトイレでの排泄に誘導している。夜間は、オムツにしたり、睡眠を優先して声かけに配慮して、排泄の支援をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 申し送りや排泄チェック表にて排泄状況を把握する 毎日の体操、レクリエーションにて運動を日課とし、十分な水分摂取を促す 頑固な便秘は医師と対応策を検討する | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人ひとりの入居者のペースに合わせて入浴を楽しめるようにする 入浴剤を使用し温泉気分を楽しむ | 入浴は週2回が基本だが、利用者の希望に沿って柔軟に対応している。浴槽は大きく、ゆったりとして寛いで入浴できる。入浴を拒否する人には、時間や人を替えて対応している。入浴剤や季節のゆず湯などを楽しむこともある。バスタオル、椅子に敷くタオル、洗いタオル各3枚を利用者それぞれに使い、清潔な支援を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 散歩やレクリエーションを通じて、良眠に繋げる 一人ひとりの体調や状態に合わせて日中も静養臥床する時間を確保し、身体の負担軽減に努める | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤師の管理のもと、お薬手帳の管理、服薬支援を行う 服薬変更があれば申し送り及び業務日誌へ記載し、誤薬のないように周知する 服薬チェックシートも作成する | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴を把握し入居者一人ひとりのできること、得意なことを大切にしながら役割や楽しみにつながるよう支援する | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩・買い物など希望があればできる限り職員が付き添う 家族様にご協力いただき、近隣への散歩・外食などを楽しみ | 日常的に昼からの散歩を予定しており、事業所の近くを散歩したり、玄関に出て外気に触れる機会を設けている。スーパーに買い物に行ったり、長居公園に花見に出かけたり、近くの区民センターの催しに出かけている。家族と共に外食や買い物にも出かけている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理が可能な方は家族と相談し、現金を所持されている 買い物には同行するが支払いは入居者ができるよう支援する | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の希望がある場合は事務所の電話を利用することができる ご自身で近況報告のはがきを書く 手紙などは職員が預かり、投函する | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロア(共同空間)はゆったりしていて、採光がよく、季節に応じた装飾、入居者が作った作品などを飾っている | 事業所は我が家のような外観で、リビング、廊下は広く、大きな窓から光が差して明るい。 아일랜드キッチン、小上がりの畳のスペースに床の間、床暖房のどれもが最新の設備である。中庭の木々の紅葉は、季節を感じるができる。クラシカルなピアノ、ソファが置かれ、クリスマスツリーを飾り、壁にはお相撲さんの訪問時の写真があり、テレビからはDVDで1年間の様子が映され、利用者のくつろいだ笑顔が見られる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 解放感のある和室、テーブル席、ソファなど、一人で過ごしたり、気の合う者同士で思い思いに過ごすことができるよう工夫している | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使い慣れた物を持参していただき、自宅での生活とかけ離れないように家族にも協力していただく 今までの生活空間を作るよう努める | 居室は広くて明るく、ベッド、カーテン、洗面台、大きなクーゼットが用意してある。利用者はタンスやテレビ、化粧台を持ち込み、ぬいぐるみやカレンダー、家族の写真や趣味の本を置いたり、新聞を購入している人もいて、その人らしい居心地良い部屋作りをしている。フローリング床にカーペットを敷いている人もいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 職員見守りの中で一人ひとりの状態に応じた自立支援に向けて取り組みを行う | | |